

スポーツ健康学実習 I における学生間の人間関係と コミュニケーション力の向上感および授業満足度との関連性について

大隈 節子 (教育学部)

1. はじめに

本学は教育全体の目標として、幅広い教養の基盤に立った高度な専門知識や技術を有し、地域のイノベーションを推進できる人財を育成するために「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、それらを総合した「生きる力」の「4つの力」を養成することを掲げている¹⁾。その1つにあたる「コミュニケーション力」とは、具体的に「他人との相互理解を支えるスキル、他人に対する態度、志向性など、対人関係を前提とした情意的・認知的領域に関する能力」のことである。

また、WHO の健康の定義では、社会的側面に着目し、健康とは単に病気でないとか、虚弱でないということではなく、家族、地域社会、職場において豊かで安定したコミュニケーションが築かれている状態ということが明示されている。

現在、本学共通教育の保健体育教育科目の一環として1年次前期に開講されているスポーツ健康学実習の目的は、身体運動・スポーツの実践を通して、心身の変化や技能の向上を体験しその体験を科学的に理解すること、また、これらの理解から身体運動・スポーツの必要性和重要性に自ら気づき、生涯体育に向けて自主的・積極的に健康と体力を維持増進するために必要な実践能力を養うことにある²⁾。

そこで本稿では、他者とのコミュニケーションもまた健康の一環と捉えた上で、スポーツ健康学実習 I における授業中の学生間の人間関係の現状や授業を通じたコミュニケーション能力の向上感について、また、これらの項目の関連性と授業満足度との関連性について明らかにすることを目的とした。

2. アンケート調査の概要

- 1) 調査日 2011年10月3日～7日
- 2) 調査対象者

本学1年生を対象とした共通教育「スポーツ健康学実習 I」を履修した学生528名。性別、所属学部の内訳は表のとおりである。

表 1 性別による内訳

性別	人数	パーセント (%)
男性	321	60.8
女性	207	39.2
合計	528	100.0

表 2 性別による内訳

所属学部	人数	パーセント (%)
人文学部	133	25.2
教育学部	92	17.4
医学部	2	0.4
工学部	185	35.0
生物資源学部	116	22.0
合計	528	100.0

3) 調査方法

集合法により実施し、回答は無記名で実施時間は20分間程度でおこなった。

4) 分析方法

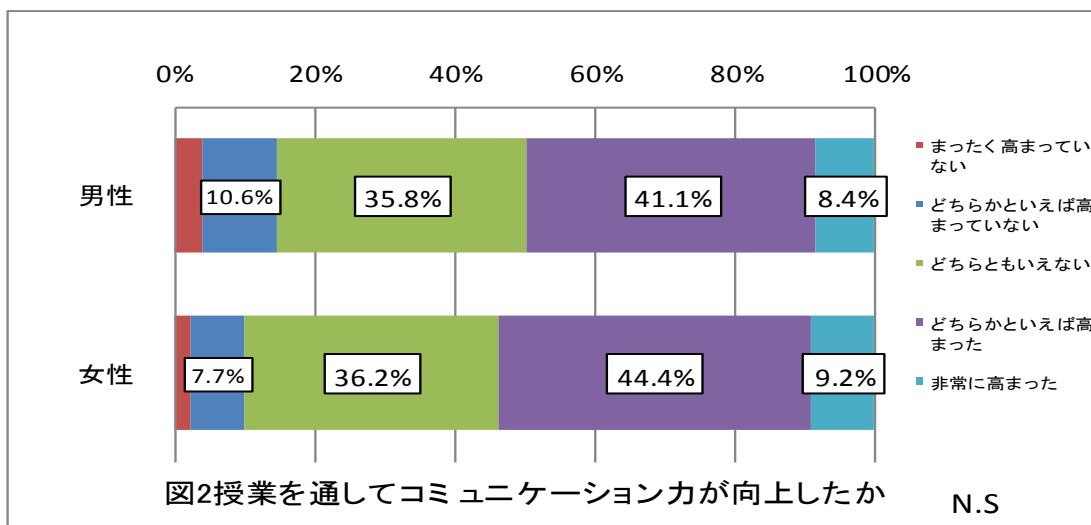
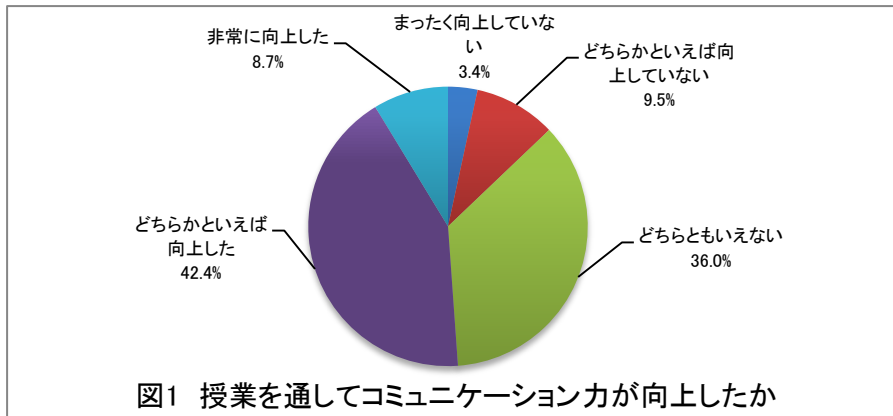
男女における比較については、SPSSにより、カイ二乗検定およびを行った。また、項目間の関連については、スピアマンの順位相関係数を使用した。以下において「有意差がある」と示した項目は危険率1%以下で有意な差があったものである。

3. 結果

1) スポーツ健康学実習 I がコミュニケーション力の向上に与える影響

図1のとおり、スポーツ健康学実習 I の授業を通して、自分自身のコミュニケーション能力が向上したと回答した学生は全体の半数以上(51.1%)であった。

また、男女間において比較検討を行ったところ、有意な差はみられなかった。

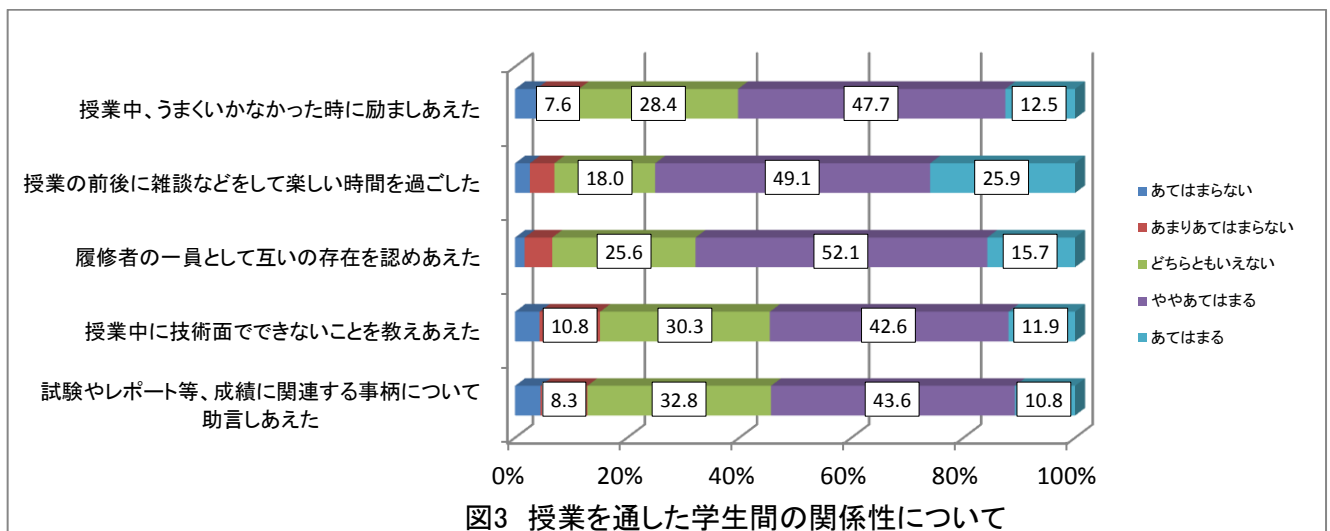


2) 授業における学生間の関係性について

本調査では、授業中の学生間の人間関係の具体的な内容として、「授業中、うまくいかなかった時に励ましあえた」、「授業の前後に雑談などをして楽しい時間を過ごした」、「履修者の一員として互いの存在を認めあえた」、「授業中に技術面でできないことを教えあえた」、「試験やレポート等、成績に関連する事柄について助言しあえた」の5つに分け、それぞれの内容についてどの程度あてはまるかにつ

いて回答を求めた。

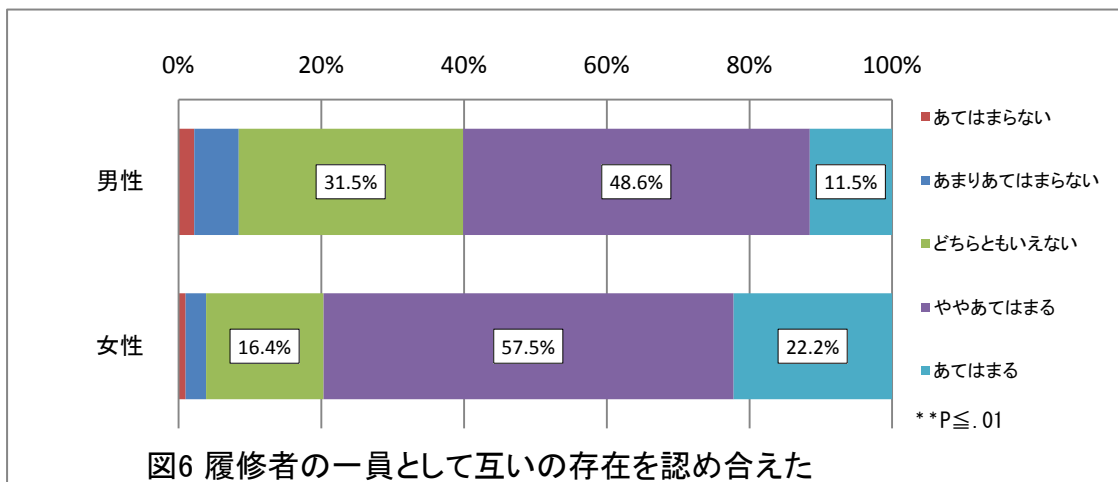
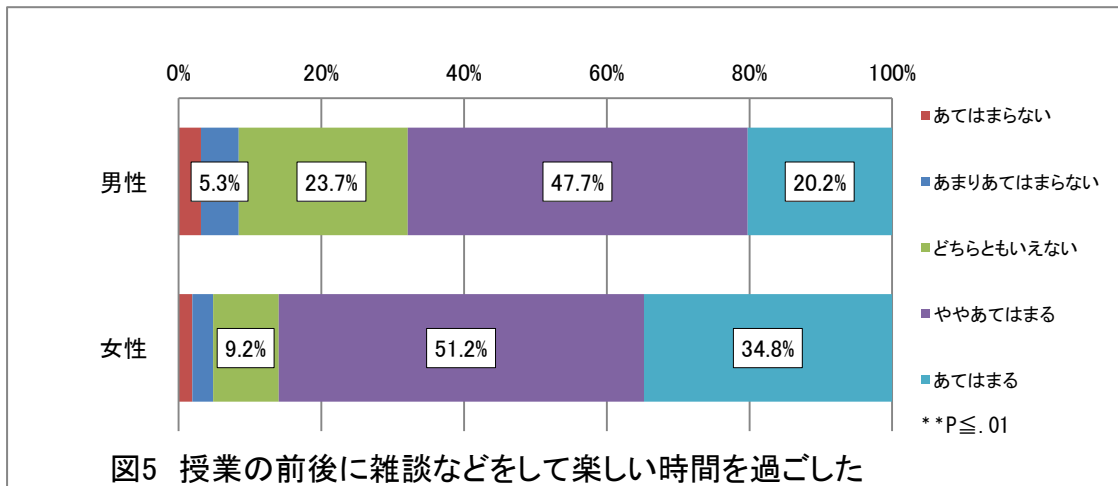
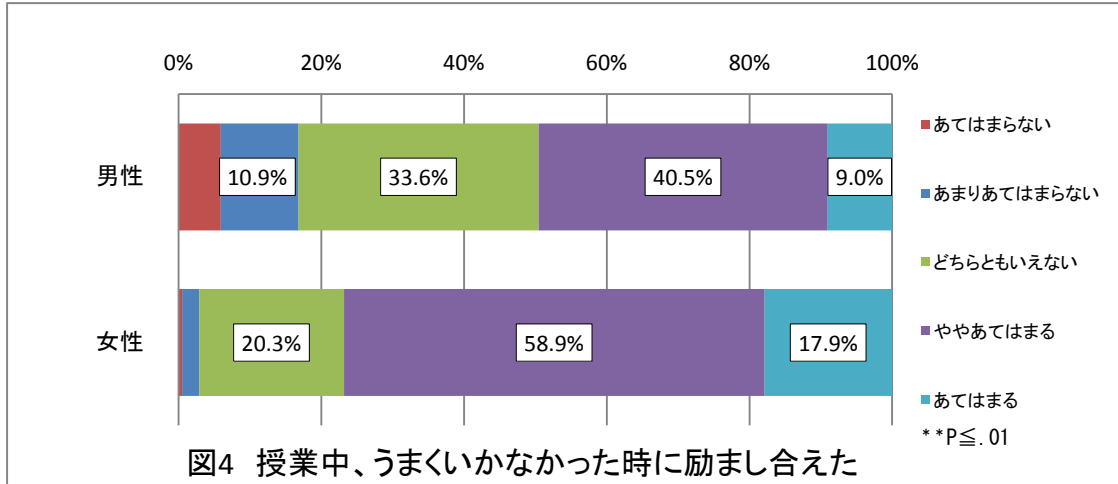
結果は、図2の通りである。すべての項目で「ややあてはまる」、「あてはまる」と回答した学生は5割を超えており、多い順に「授業の前後に雑談などをして楽しい時間を過ごした」が75.0%、「履修者の一員として互いの存在を認めあえた」67.8%、「授業中、うまくいかなかった時に励ましあえた」60.2%であった。

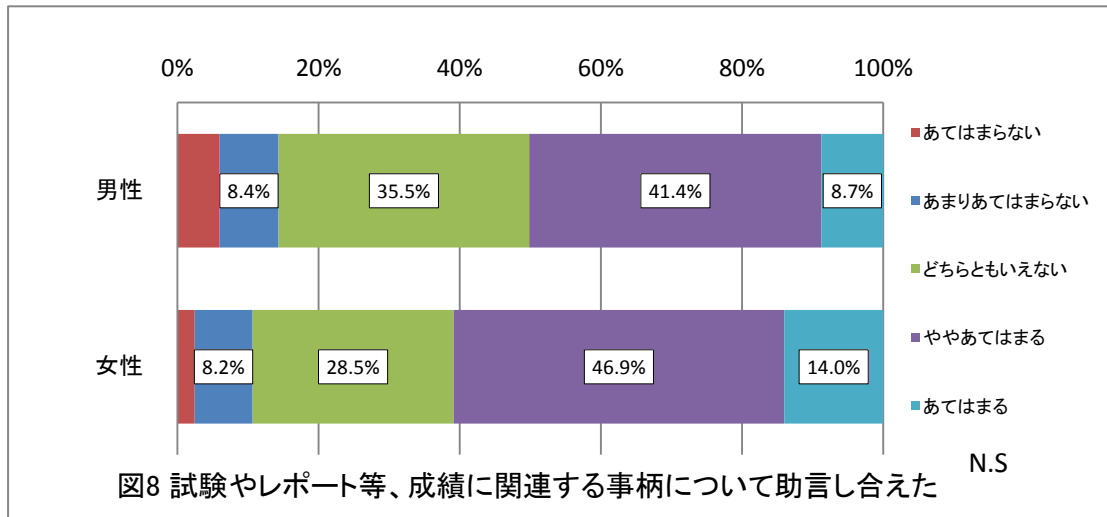
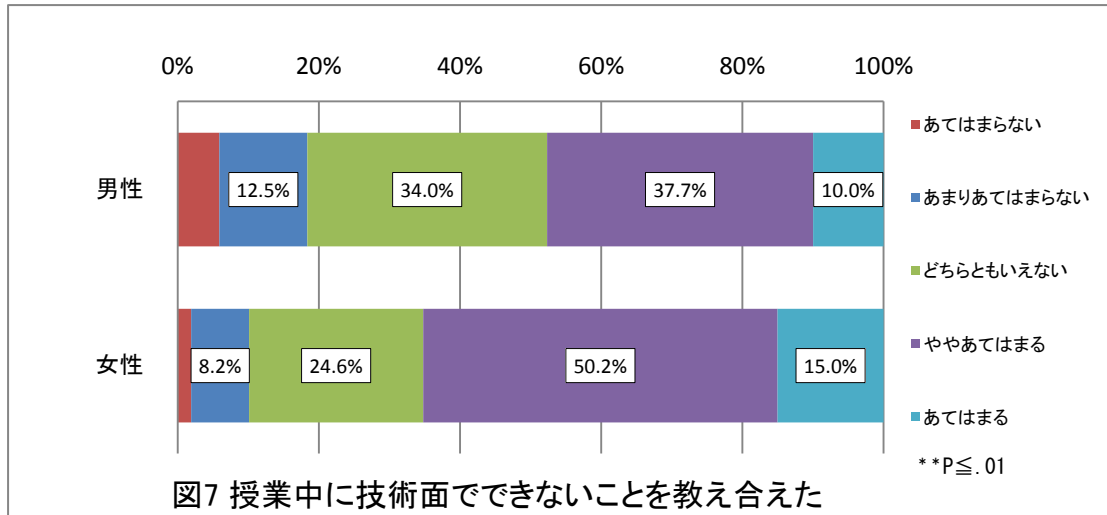


3) 性別による比較

上記の 5 つの関係内容について、男女による比較を行ったところ、4 つの項目において有意差が見られた。結果は図 4~8 の通りである。どの項目においても女性の方が当てはまると回答した学生の割合が多いことが明らかになった。また、最も男女において差が見られた項目は「授業

中、うまくいかなかった時に励まし合えた」であり、次に「履修者の一員として互いの存在を認め合えた」、「授業の前後に雑談などをして楽しい時間を過ごした」と続き、4 番目に「授業中に技術面でできないことを教え合えた」の順であった。





4) 授業中における学生間の各人間関係項目とコミュニケーション力の向上との関連性について

上記の授業中における5つの各関係項目と授業を通したコミュニケーション力の向上との関連性について、スピアマンの順位相関係数により検討した結果、表3のとおり、男女ともに5つの関係項目すべてにおいて有意差が見られ、「低～中程度」の関係があることが明らかになった。

表3 授業中における男子学生間の各人間関係項目とコミュニケーション力の向上との関連性について

関係の項目	順位相関係数 (rs)
授業中、うまくいかなかった時に励まし合えた	0.533 **
授業の前後に雑談などをして楽しい時間を過ごした	0.466 **
履修者の一員として互いの存在を認め合えた	0.559 **
授業中に技術面でできないことを教え合えた	0.512 **
試験やレポート等、成績に関連する事柄について助言し合えた	0.488 **

表4 授業中における女子学生間の各人間関係項目とコミュニケーション力の向上との関連性について

関係の項目	順位相関係数 (rs)
授業中、うまくいかなかった時に励まし合えた	0.466 **
授業の前後に雑談などをして楽しい時間を過ごした	0.382 **
履修者の一員として互いの存在を認め合えた	0.504 **
授業中に技術面でできないことを教え合えた	0.306 **
試験やレポート等、成績に関連する事柄について助言し合えた	0.429 **

5) 授業中における学生間の各人間関係項目と授業満足度との関連性について

表4のとおり、上記の授業中における5つの各関係項目と授業満足度との関連性について、スピアマンの順位相関係数により検討した結果、5つの関係項目すべてにおいて有意差が見られ「低～中程度」の関係があることが明らかになった。

表5 授業中における男子学生間の各人間関係項目と授業満足度との関連性

関係の項目	順位相関係数 (rs)
授業中、うまくいかなかった時に励まし合えた	0.334 **
授業の前後に雑談などをして楽しい時間を過ごした	0.407 **
履修者の一員として互いの存在を認め合えた	0.440 **
授業中に技術面でできないことを教え合えた	0.328 **
試験やレポート等、成績に関連する事柄について助言し合えた	0.294 **

表6 授業中における女子学生間の各人間関係項目と授業満足度との関連性

関係の項目	順位相関係数 (rs)
授業中、うまくいかなかった時に励まし合えた	0.309 **
授業の前後に雑談などをして楽しい時間を過ごした	0.287 **
履修者の一員として互いの存在を認め合えた	0.386 **
授業中に技術面でできないことを教え合えた	0.204 **
試験やレポート等、成績に関連する事柄について助言し合えた	0.199 **

4. 考察

これまでに、本研究者は同対象者に対し、スポーツ健康学実習 I を通した人間関係が授業満足度や学生生活全般へ及ぼす影響³⁾について検討を行い、前期に開講される本授業が新入生のよりよい学生生活を送る上でその一躍を担っている可能性について明らかにした。

そこで本稿では、授業における学生間の人間関係の具体的な5つの内容を設定し、男女別にコミュニケーション力の向上、及び授業満足度との関連性について検討することを目的とした。

まず、授業における学生間の5つの関係性の状況を男女別に比較したところ、すべての項目において女子の方が男性よりも関係を築きやすいことが明らかになった。

また、これらの5つの関係性のうち、コミュニケーション力の向上感との関連性が最も高かった項目は、男女ともに「履修者の一員として互いの存在を認め合えた」、次に「授業中、うまくいかなかった時に励まし合えた」であった。それ以外の項目については、男子では、「授業中に技術面でできないことを教え合えた」、「試験やレポート等、成績に関連する事柄について助言し合えた」と続き、「授業の前後に雑談などをして楽しい時間を過ごした」の順であった。女子においては、「試験やレポート等、成績に関連する事柄について助言し合えた」、「授業の前後に雑談などをして楽しい時間を過ごした」、「授業中に技術面でできないことを教え合えた」の順に関連性が高いことが明らかになった。

また、これらの5つの関係性のうち授業満足度との関連性が最も高かった項目は、男女ともに「履修者の一員として互いの存在を認め合えた」であり、2番目、3番目については、男子が「授業の前後に雑談などをして楽しい時間を過ごした」、「授業中、うまくいかなかった時に励まし合えた」、女子においては「授業中、うまくいかなかった時に励まし合えた」、「授業の前後に雑談などをして楽しい時間を過ごした」の順であった。他の項目については、男女ともに「授業中に技術面でできないことを教え合えた」、「試験やレポート等、成績に関連する事柄について助言し合えた」の順であり、女子の「試験やレポート等、成績に関連する事柄について助言し合えた」の項目については授業満足度とほとんど関連がないという結果であった。

本研究の結果から、スポーツ健康学実習 I の授業においては、教員と学生との関係だけでなく、学生間においても履修者の一員として互いの存在を認め合い、うまくいかなかった時に励まし合うような関係づくりに心がけた授業展開をすることで、学生のコミュニケーション力に対する向上感、授業満足度の向上につながる可能性が明らかになった。

今後は、今回設定をした5つの関係性項目だけでなく、更にコミュニケーション力の向上、授業満足度との間に関連のある項目について検討する必要がある。

5. 参考・引用文献

- 1) 野村由司彦：「4つの力」考 三重大学 HP (<http://www.mie-u.ac.jp/topinfo/hp2/cat241/post-1.html>)
- 2) 2012年度 共通教育履修案内 p.33.
- 3) 大隈節子：スポーツ健康学実習 I における学生間の人間関係と新入生の学生生活との関連性に関する研究. 大学教育研究—三重大学授業研究交流誌—第 20号, 17-23, 2012.